

## 2016 年年頭挨拶【要旨】

三菱化学物流株式会社  
取締役社長 石川 甚秀

本年度をもって、当社の中期経営計画「MCLC APTSYS 15」が終了するが、これまで重点施策である“3つのG”すなわち“Gemba-ryoku (現場力)” “Group” “Global” に沿って、全員参加の取組みで着実に足元固めを行ってきた。そしてさらに、それらをベースに、継続して検討すべき課題や環境の変化に柔軟に対応しながら、次なる新中期経営計画「MCLC APTSYS 20」を進めていきたい。

先般決定した、2016年度から2020年度までの新中期経営計画「MCLC APTSYS 20」では、“2020年のめざす姿”として、化学品を安全・安定・確実に顧客に届けるという仕事を通して、荷主様、顧客、そして地域や社会に貢献すること、つまりは「KAITEKI 物流を創造することで、化学業界全体に貢献し、あらゆるステークホルダーから信頼される化学品物流日本一をめざす」ことを掲げた。

従来陸運事業や海運事業、フォーワーディング事業、燃料・仲立事業に加えて、包装・資材事業やタンク事業やヘルスケア事業をも積極的に拡大推進し、さらにそれらを繋ぐ統合システム”AJIOS”も今年4月から一部が実行に移ることになる。

是非、“3つのG”を常に意識しながら、三菱ケミカルホールディングスグループへの貢献だけに留まらず、国内化学品物流業界での存在感を向上させ、化学品物流日本一をめざしていきたい。

最近の化学や石油精製等の荷主や顧客の業界を見てみると、世界的には、ダウ・ケミカルとデュポンの合併が発表されたり、国内でも、大手石油精製企業どうしの合併等の発表があった。また、(株)三菱ケミカルホールディングスグループ内でも、三菱化学(株)、三菱レイヨン(株)、三菱樹脂(株)が統合されたケミカル新社が2017年(来年)4月にスタートするというように、急激なスピードで変化してきている。

一方、物流業界に目を向けると、少量多品種・多業種にわたる商品を一般消費者に届ける物流業務(いわゆるB to Cビジネス)は盛況となっている反面、長距離ドライバーや船員が不足する中、危険物や重量物、長尺物のような輸送し難いものの物流が嫌われる場面が増えるとともに、そのような危険物輸送に関するリスク管理もこれまで以上に重要なポイントになってきている。

もちろん、我々が主に対象とするこのような化学品が、原料等として使用され、変化した後、最終的にいろいろな形で社会に役に立っている訳であり、これら化学品を、安全・安定・確実に顧客に届けるという仕事を通して、荷主様、顧客、そして地域や社会に貢献することが当社の進むべき道であり、「MCLC APTSYS 20」はこの考え方をベースに置いている。

さて、私は、安全 QA (Quality Assurance) 、コンプライアンスは企業存続の大前提であると常々申し上げてきた。慣れた作業であっても、慢心せずに、一人ひとりが緊張感を持ち、互いに注意し合って、協力し合って、助け合って、“三菱化学物流”という組織での安全 QA の文化を築き上げることができれば、必ずや重大トラブルはゼロに向かっていくと確信している。

皆さんの心の中にある、“バカの壁”を破り、何事にも積極的に確認し、“対話、教育・伝承、Know-Why、三現主義”を心がけ、緊張感を持って、日々新たな気持ち“日新”で安全と改善を積み重ねていこう。

一方、昨年は名だたる大企業による重大なコンプライアンス違反が多発した。これらの事例を他山の石として自らの仕事を省みて、見落としや問題がないか、確認を行っていこう。特に、荷主様、協力会社様あるいは社内の他部門との接点業務については、それぞれが情報の共有化、価値観の共有化を図り、役割分担を明確にしていきたいと考える。

ところで、本年は、当社の前身の1つである洞海産業(株)発足から数えて60周年、加えて現在の三菱化学物流(株)となってから20周年となる。また、グループ会社に目を向けるとインドネシアのPT. Lintas Buana Kasei 社が発足から20周年を迎えることになり、当社グループにとって、今年、2016年は記念すべき年と言える。

次なる10年で当社そして皆さんが大きく成長するために、これまで以上に、情報を共有化し、価値観を共有し、想いを共有し、各人が内なる炎に火をつけて、打ち込め魂仕事の上に、で明るく楽しく元気に1日1日を積み重ねていこう。

私は、出張等がなく本社で勤務している日には、今年も、社内を回って皆さんと挨拶を交わし、またそれ以上に話しかけていきたいと思っているので、互いに視線を合わせて挨拶していこう。本年もよろしくお願ひします。

以上